

# 第 189 回 アメリカとソ連の動揺

## 1 超大国アメリカの動揺

- ・ベトナム戦争の失敗で苦境におちいったアメリカは、外交政策の転換を迫られた。
- ・また深刻な財政赤字を抱え、アメリカの国際的地位も低下していった。



ニクソン  
第 37 代大統領。アメリカ史上唯一、任期途中で辞任した大統領であるが、外交政策などの評価は非常に高い。

- ◆ ( ) (共和党) (在任 1969~1974 年)
- ・1969 年、( ) が人類史上初の月面着陸に成功した。
- ・1971 年、アメリカ大統領ニクソンは、金とドルの交換停止を発表した。  
→ドルの信用が下がり世界的な経済混乱が起こった。  
※この発表と混乱を( ) (ニクソン=ショック) という。  
→1973 年、( ) に移行し、ブレトン=ウッズ体制は崩壊した。
- ・またニクソン=ドクトリンにより、海外の問題へ介入することを控えた。  
→沖縄返還協定に基づき、1972 年、( ) を日本に返還した。  
→1973 年には、ベトナム和平協定によりベトナムからも撤退した。

- ・中ソ対立が激しくなると、アメリカと中国の接近もはかられた。  
→1971 年、国連代表権が台湾の中華民国から中華人民共和国にうつった。  
→1972 年、( ) が行われ、米中関係は劇的に改善した。
- ・この流れを受けて、日本の( ) 首相も、1972 年に訪中した。  
→日中共同声明を発表し、( ) が実現された。  
→1978 年には、( ) が結ばれた。



キッシンジャー大統領補佐官

ユダヤ系の国際政治学者で、ニクソンの大統領補佐官として、ニクソン訪中を実現させた。後に国務長官。まだ元気で活動中。



ニクソン訪中

握手する毛沢東(左)とニクソン(右)。ニクソン訪中のニュースは、世界を驚かせた。その後 1979 年、アメリカと中国の間に国交が開かれた。



日中国交正常化

田中角栄首相(左)と周恩来首相(右)。中国から上野動物園にパンダが来て、空前のパンダブームとなったのはこの直後のことである。

- ・一方でニクソン時代のアメリカは、ソ連とも良好な関係を保った。  
→1972 年、ニクソンはソ連のモスクワを訪れて( ) と会談し、( ) に調印した。  
※この時代の米ソの緊張緩和を( ) という。
- ・1974 年、( ) により辞任した。



ブレジネフとニクソン

第1次戦略兵器制限交渉に調印した際の写真。英語では SALT I という。このような略字は一見難しく感じるが、日本語を英語に訳してみればすぐに区別できる。



ウォーターゲート事件

ウォーターゲート事件は、大統領選挙に関係する盗聴事件で、ニクソンも関わっていた。写真は辞任を表明して、ホワイトハウスを去る時の有名な場面。



フォード大統領

ニクソンの辞任後、副大統領から昇格したが、成果は残せなかった。初めて来日したアメリカ大統領なのだが、戦後の大統領で唯一入試に出ない。

## 2 ソ連の指導力低下

- ・ソ連では、1964年に（ ）されブレジネフが指導者となった。  
→コスイギン首相がブレジネフ第一書記を補佐した。



ブレジネフ  
フルシチョフ失脚後に、ソ連の指導者となった。太い眉毛が印象的。晩年にはソ連経済は完全に破綻してしまっ

- ◆（ ）（書記長在任 1964～1982年）
- ・しかしソ連では、経済成長の鈍化、莫大な軍事費、共産党の一党独裁などにより徐々に国全体が停滞しはじめた。

### <東欧諸国の動揺>

- ・1965年以降、（ ）のチャウシェスク大統領は、ソ連と距離を置き独自外交をとるようになった。
- ・1968年、（ ）の（ ）は、「 」と呼ばれる民主化運動を行った。  
→ソ連はブレジネフ=ドクトリンをとるやうに、ワルシャワ条約機構軍を侵攻させる軍事介入を行った（チェコ事件）。
- ・1980年、（ ）では、ポーランド自主管理労組「 」の（ ）議長が、民主化運動を行った。



チャウシェスク  
ルーマニアの独裁者。豪華な生活を送ったが、1989年の革命で処刑された。



チェコスロヴァキアのアレクサンデル・ドプチェク ソ連の戦車と民衆



ドプチェクは、「人間の顔をした社会主義」をかかげ、「プラハの春」をすすめた。ソ連の介入に対して、市民はソ連兵の説得などを行ったが、結局ドプチェクは失脚させられた。



「連帯」のワレサ議長

共産主義政権が倒された後、1990年からポーランド大統領となった。元は電気技師。日本が好きで、政治家を引退した現在もよく来日している。

### <中国・アメリカとの関係>

- ・フルシチョフの時代に始まる中ソ対立は、この時代さらに激化した。  
→中国側について（ ）は、1961年にソ連と断交した。  
→1969年、ウスリー川のダマンスキー島で（ ）が発生した。
- ・アメリカとは良好な関係を保ち、（ ）大統領がモスクワを訪問した。  
→1972年、第1次戦略兵器制限交渉（SALT I）に調印した。
- ・1979年には、第2次戦略兵器制限交渉（SALT II）に調印した。  
→しかし1979年にソ連が（ ）に侵攻したため、米ソ関係は急激に悪化し、「（新冷戦）」と呼ばれる対立となった。



アフガニスタン侵攻

共産主義勢力を支援するため、ソ連はアフガニスタンに侵攻した。ターリバーンの登場など、現在の世界に大きな禍根を残した。



サハロフ

ソ連の物理学者で、「ソ連水爆の父」と呼ばれた。しかし後に核実験の停止や民主化を求めて活動するようになり、ノーベル平和賞を受賞した。ブレジネフによって監禁状態に置かれた。



カーター大統領

第39代大統領。民主党から出馬して当選したが、指導力を発揮したとは言い難い。ソ連によるアフガニスタン侵攻の際のアメリカ大統領。